



## 友達との再会に笑顔 ～登校日～



緊急事態宣言の延長に伴い、5月7日（木）から当面の間、臨時休業が延長されることとなりました。本日は、臨時休業中の学習課題を示すことと、お子様たちの心身の状態を確認するため、登校日を設定させていただきました。登校は、学年単位の分散登校とし、できる限り3密を避け、短時間で帰宅できるよう配慮いたしました。学年集会では、校長、学年主任からお話しさせていただくとともに、学習担当、生徒指導担当、養護教諭の3名から、それぞれ臨時休業中の生活について指導いたしました。また、その後の学級活動では、担任及び生徒同士が久々の再会を喜び合う姿が見られました。

マスコミ報道にもあるように、今後の非常事態宣言や臨時休業の解除については、まだまだ不確定な部分があります。情報も錯綜しており、心配をおかけすることが多いと思いますが、学校からはできる限りスピーディーに確かな情報を発信するよう努力いたしますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本日の指導内容につきましては、お子様に配布させていただいた資料等でご確認ください。

### 学年集会での校長の話 ※ 抜粋

皆さんの心の中には「いつになったら学校にいけるんだろう」「勉強がどんどん遅れてしまう」「部活動やりたいな」「友達といっぱい話したいな」「でもコロナにかかったら怖いな」など、たくさんの不安と恐れのお気持ちがあふれているのではないかと思います。今まで「普通」と思っていたことができなくなることは誰にとっても不安であり、ストレスという「マイナスの感情」を生みます。では、この感情とどう向き合ったらいいか。ある脚本家の方がこんな話をしています。



心の中に「マイナスの感情」という水たまりができる。放っておくとどんどん大きくなってあふれてしまう。そうならないためには、水を外に流す「川」を作ればいい。この「川」というのは「身近な誰かに話を聞いてもらうこと」だ。

前回の学校便りでお話ししたとおり、不安や心配、ストレスを抱えているのは、みんな同じです。大人も子どもも関係なく、みんなが悩み、不安になっています。だからこそ、今最も身近な家族といっぱい話しましょう。「今自分はこんな気持ちなんだ」と、ストレートに伝えてみてください。必ず家族は受け止めてくれるはずですよ。一緒に悩み、一緒に考えてくれます。そうすることで「じゃあ、こうしてみよう。」「こう考えてみよう。」という気持ちが生まれてきます。

今起きている大変な状況が急激に変わることはないかもしれませんが、でも、その状況を受け止める私たち自身の気持ちが変わることで、対応も違ってくるのではないかと思います。

第二次大戦中にドイツのヒトラーに迫害されたユダヤ人の中にアンネ・フランクという少女がいました。彼女はドイツが行ったユダヤ人狩りから逃れるために、3年間隠れ家で生活しました。学校も行けず、外出もできず、昼間はずっと声を潜めて生活していたのです。その彼女がこう言っています。

良くなるのも、悪くなるのも、人の心の持ちようしだいなんです。

今の苦しい状況に「心」が負けないよう、「乗り切ろう!」と決意することが大切なのではないでしょうか。直接会う時間はなかなか作れませんが、「心」を合わせて頑張りましょう。

### お知らせ

- 学校集金の第1回集金（引き落とし日）が、5月11日（月）となっています。各家庭で登録された口座への入金をよろしくお願いします。集金額については、過日配付したPTA総会要項でご確認ください。